

研究主題

防災教育と関連付けた家庭科指導資料の作成

【研究担当者】 川 地 里 美

【この研究に対する問い合わせ先】

T E L 0198-27-2814 F A X 0198-27-3562

E-mail kagaku-r@center.iwate-ed.jp

1 指導資料作成にあたって

この指導資料は、家庭科の学習における防災教育の要件を二つに整理しています。この要件は学習指導要領に示されている小・高等学校家庭科、中学校技術・家庭科家庭分野のねらいにも即しています。学校や児童生徒の実態に応じた題材を構想する際の参考にしてください。

防災教育と関連付けた家庭科指導		「いわての復興教育」プログラムとの関連（p.21）
要件	題材開発の視点	
家庭科で身に付けた技能（中高は技術）や生活技術を活用して、非常時を想定した備えを工夫・創造できる	非常時を想定した備えに対する ライフスキルを育てる視点	自らを守り、他者を支えるために身に付けさせたい知識・技能 ・災害による被害を最小化する視点 ・思いを共有する視点
家庭科で身に付けた知識や生活体験を通して、生活課題へのよりよい対応の仕方を考え、判断することができる	生活課題に対するよりよい対応の仕方を思考・判断・表現させ ソーシャルスキルを育てる視点	人としての生き方、自らの在り方を考える態度 ・震災から学んだ教訓を生かす視点

2 防災教育と関連付けた家庭科指導資料の内容について

I 小学校家庭科 2-(3) (中高可) 題材名：非常時の家族との連絡方法を確認しよう

【活動のねらい】 災害が発生したときに自分の身を守るための避難行動について、家族と話し合う。

- 家庭での防災会議（一人ひとりの役割、避難場所と避難路、連絡方法など）
- 家族との連絡方法の確認（家庭との連携による実践）
- 自宅（学校・予想される遊び場など）からの避難路の確認
- 地域で発生しやすい災害を予測する 火災による二次災害を防ぐ方法

【学習シート】（児童生徒一人ひとりに学習の記録をさせるシート）

非常時の家族との連絡方法を確認しよう

年 組 番 () 班 氏名

☆東日本大震災津波に起きた「困ったこと」を思い出して、書いてみよう。

●連絡がつかない

●公共の交通機関がストップ

対 策

対 策

「非常時の連絡手段」を決めておきましょう。災害用伝言サービス以外にも、手書きの伝言メモを残す場所を決める、なども有効です。

震災後の混乱時に暗くなってからの徒歩帰宅は逆に危険になる可能性もあります。体力や準備が不十分な場合は、安全な場所に避難し明るくなるまで
たいき
待機しましょう。

Ⅱ 中学校家庭分野 1-(3) 題材名：住まいの安全・安心対策や節電に役立つ小物を工夫しよう

【活動のねらい】 住まいの安全・安心対策や節電に役立つ小物を工夫し，製作計画を立てる。
工夫した小物を製作し，日常と非常時の活用方法を考える。

- 余り布や不要衣料の活用 型紙づくり 印付け 布地の裁断
- 布地の合わせ方（中表） 正しいまち針のとめ方
- ミシンの下糸巻き ミシンの上糸・下糸のかけ方
- ミシンでの直線縫い（始めと終わりの返しぬい，角の縫い方）
- 手ぬい針に糸を通す 玉結び 並縫い まつり縫い 玉どめ
- ボタンつけ（2つ穴・4つ穴ボタン，飾りボタン）
- スナップボタンつけ（丈夫につける方法）
- 生活を豊かにするための工夫する 快適な住まい方の工夫
- 衣生活又は住生活についての課題と実践 住まいの安全・安心対策
- 節電の工夫 環境に配慮した消費生活の工夫と実践

＜製作実習題材の例＞

落ちないネクタイ	家庭用防災袋
	
<input type="checkbox"/> 小学校家庭科裁縫技能の習得状況の確認と活用 【並縫い・ミシンによる直線縫い】 <input type="checkbox"/> 節電と快適な住まい方の工夫 <input type="checkbox"/> 環境に配慮した消費生活の工夫と実践	<input type="checkbox"/> 中学校技術・家庭科家庭分野裁縫技術の習得 【まつり縫い・スナップボタンつけ】 <input type="checkbox"/> 住まいの安全・安心対策 <input type="checkbox"/> 環境に配慮した消費生活の工夫と実践
防災頭巾	玄関収納ポケット
	
<input type="checkbox"/> 小学校家庭科裁縫技能の活用 【ミシンによる直線縫い・ボタンつけ】 <input type="checkbox"/> 住まいの安全・安心対策 <input type="checkbox"/> 衣生活・住生活についての課題と実践	<input type="checkbox"/> 中学校技術・家庭科家庭分野裁縫技術の習得 【まつり縫い】 <input type="checkbox"/> 快適な住まい方の工夫 <input type="checkbox"/> 衣生活・住生活についての課題と実践

Ⅱ 中学校家庭分野 1-(3) 題材名：住まいの安全・安心対策や節電に役立つ小物を工夫しようー落ちないネクタイの製作ー

【活動のねらい】 市販の手ぬぐいを用いて作る方法と、布を裁断して製作する方法がある。ここでは、布を裁断して製作する方法を紹介する。ポケットを3つつくり、首の後ろと左右の頸動脈に保冷剤が当たるようにして夏の暑さを防ぎ、室温を下げる電化製品の使用を抑え節電にもつながる工夫を考えさせる。

<材 料>

- ・綿ブロードまたは綿ダブルガーゼ 88cm
- ・ミシン糸（手縫い糸で、並縫い・本返し縫いで作らせてもよい）

<用 具>

ミシン、ボビン、ものさし（竹尺）、チャコペン、裁ちばさみ、まち針、糸切りばさみ（手縫いの場合は、手縫い針（短針））、アイロン、アイロン台

< 落ちないネクタイの作り方 >

- ① 布地を裁つ。縦の長さはいづれも88センチ、横の長さは布を無駄にしないように次のようにする。110センチ以上の幅の場合は4等分、90センチ幅の場合は3等分とする。

【日本の和裁の裁断：反物を無駄なく使用していることを学習させるとよい】

- ② 裁断した布を中表に二つ折りにし、1cmの縫いしろを取り、出来上がり線と返し口の印をチャコペンで付ける。



- ③ 出来上がり線の印のとおりミシンで縫う。

【始めと終わりは返し縫い】

- ④ 4つの角をミシンの縫い目を切らないように、切り落とし、返し口から表に返す。【写真1】まち針で角を整え、アイロンをかける。

- ⑤ ④を二つ折りにし、返し口部分をミシンで縫い合わせる。【写真2】

返し口を縫い合わせた布端から、18cmのところ、保冷剤のポケット部分を12cm間隔で、ステッチをかける。（ミシンの直線縫い）

【始めと終わりは返し縫い】

保冷剤を入れるポケットを3つ作る。【完成】



【写真1】④角の切り落とし



【写真2】⑤

被服材料による冷却度の違いを体感してみよう



3 実践的・体験的な学習活動を中心として開発した防災教育と関連付けた題材

二つの要件に基づいた題材の視点から、小・中・高等学校ごとに、実践的・体験的な学習活動を中心とした題材を開発し紹介しています。各題材は、平成23～24年度の家庭に関する各研修講座の演習題材として活用し、研修に参加した教員の状況もふまえ、小・中・高等学校の系統性も視野に入れながら、修正を試みたものです。

※【 】は、小中：学習内容・指導事項、高：領域等

題材の視点 校種等	非常時を想定した備えに対する ライフスキルを育てる視点	生活課題に対するよりよい対応の仕方を思考・ 判断・表現させソーシャルスキルを育てる視点
<p>小学校 家庭科</p> <p><学習対象の範囲> 家族の一員を自覚し、 家族や近隣に協力する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○身じたくずきんをつかって活用方法を考えよう【A・B・C】 ○ガラスなべでごはんをおいしくたいてみよう【B】 ○具だくさんの汁ものをつってみよう【B】  <ul style="list-style-type: none"> ○落ちないネクタールをつってみよう【C・D身近な消費生活と環境】 	<ul style="list-style-type: none"> ○家族の団らんを計画しよう ー小袱紗つくりとおいしいお茶の入れ方ー 【A家庭生活と家族・B日常の食事と調理の基礎】 ○安全・安心なマイルーム収納を考えよう 【A・C快適な衣服と住まい・D】 ○非常時の家族との連絡方法を確認しよう【A】 ○ナップザックを防災袋にリフォームしよう 防災袋に何を入れておくか考えよう【C・D】  <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>☆ 防災袋に、3リットルの水と衣料品を入れて、避難路を確認してみよう</p> </div>
<p>中学校技術・家庭科 家庭分野</p> <p><学習対象の範囲> 実生活をよりよくする方法を考え、家族や地域で実践する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○安全・安心な地域の食材を使って郷土料理をつってみよう【B食生活と自立】 ○家族にマイ箸袋をつかってあげよう【A・B・C】 ○住まいの安全・安心対策や節電に役立つ小物を工夫しよう【C衣生活・住生活と自立・D】 	<ul style="list-style-type: none"> ○家族が安全・安心な室内環境を考えよう【C】 ○大豆やあずきを入れたお手玉をつかって子どもや高齢者とのよりよいかかわり方を工夫しよう【A・C・D】 ○家族の安全マニュアルを考えよう【A家族・家庭と子どもの成長・C】 ○生活に困ったときのよりよい対応の仕方を考えよう【D身近な消費生活と環境】
<p>高等学校 共通教科 家庭 家庭基礎（2単位） 家庭総合（4単位） 生活デザイン（Ⅱ）</p> <p><学習対象の範囲> 生涯を見通して生活設計を考え（自立）、異なる世代との共生（地域・社会）を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○文化祭で郷土料理や地場産品を取り入れたふれあい食堂やバザーを企画しよう【食・家ク】 ○被服技術検定の技能を活かし、非常時対策グッズを考案・製作して地域の子どもや高齢者にプレゼント（普及）しよう【衣・HP・家ク】 ○保育技術検定の技能を活かして、家庭生活で役立つ応急処置を考えよう【保育・家庭看護】 	<ul style="list-style-type: none"> ○復興メッセージリボンをつかって地域に普及させよう【衣・学校家庭クラブ活動】 ○日常と非常時の子育て支援や高齢・障がい者支援について考えよう【家族家庭・保育・福祉・家ク】 ○保育技術検定の技能を活かし、文化祭などでプレイルームを企画しよう【保育・家ク】 ○安全・安心な〇〇生活や〇〇環境について考えよう（食生活・住環境など）【食・衣・住・消費と環境・ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動】

東日本大震災津波後、非常時に対する備えの状況はどうでしょうか。教科指導のガイダンスなどで、児童生徒アンケートを行い、結果等をふまえ、本指導資料の題材や指導展開例を参考にしながら学習指導を工夫しましょう。『防災教育に関連付けた家庭科指導資料』の活用が、実際の生活や非常時の備え、そして避難行動の充実・向上につながる指導に少しでも役立つことを願っています。完成した指導資料は、当センターWebページに掲載する予定です。